

検査項目の説明と参考基準値



2017年8月
国保小見川総合病院 中央検査科

【検査値の見方について】

- ここに記載されている基準値は千葉県臨床検査技師会が定めた基準値です。
- 検査結果は医師が診察所見や他の検査と合わせて総合的に判断します。
- 検査結果に不明な点がありましたら担当医にご相談下さい。

血液検査

	項目名	基準値・単位	検査でわかること
蛋白	TP(総蛋白)	6.4~8.4g/dl	蛋白質の総量を表しています。
	ALB(アルブミン)	3.9~4.9g/dl	肝臓で作られ栄養状態の指標とする蛋白質です。栄養障害や炎症などで低値となります。
	CRP(C反応性蛋白)	0.00~0.30mg/dl	炎症があると上昇する蛋白質です。
肝臓	AST (アスパラギン酸トランスアミナーゼ)	13~33U/L	肝臓、心臓、筋肉の細胞に多く含まれる酵素です。心筋梗塞・急性肝炎・アルコール性肝炎などで高値となります。
	ALT (アラニントランスアミナーゼ)	8~42U/L	肝臓に多く含まれる酵素です。急性肝炎・肝硬変・脂肪肝などで高値となります。
	LD(乳酸脱水素酵素)	119~229U/L	心筋梗塞・溶血性貧血・悪性腫瘍・肝臓病などで高値となります。
	γ-GTP (γ-グルタミルトランスペプチダーゼ)	10~47U/L	肝臓や胆道系の状態をみています。胆汁うっ滞・閉塞性黄疸・アルコール性肝炎などで高値となります。
	ALP (アルカリフォスファターゼ)	115~359U/L	肝臓・胆道系・骨の状態をみています。肝臓・骨・胎盤・小腸などに障害があると高値となります。
	CHE(コリンエステラーゼ)	185~431U/L	肝臓の蛋白合成機能をみています。ネフローゼ症候群・脂肪肝・糖尿病・甲状腺機能亢進症で高値となります。
	T-Bil(総ビリルビン)	0.20~1.30mg/dl	胆道系の状態をみています。肝臓病(肝炎、肝硬変)・溶血性黄疸・閉塞性黄疸などで高値となります。
	D-Bil(直接ビリルビン)	0.00~0.30mg/dl	胆道系の状態をみています。肝臓病(肝炎、肝硬変)・閉塞性黄疸などで高値となります。
膵臓	血清アミラーゼ	39~115U/L	膵臓や唾液腺などから分泌される消化酵素です。急性膵炎・膵管閉塞・耳下腺炎などで高値となります。
心臓・筋肉	CK(クレアチンキナーゼ)	60~287U/L	筋肉(心筋や骨格筋)に含まれている酵素でこれらの組織の障害をみています。心筋梗塞・筋ジストロフィーなどで高値となります。
	BNP (脳性ナトリウム利尿ペプチド)	0.00~18.4pg/ml	心臓の働きを評価します。心筋梗塞や心不全のような心臓に負担がかかった状態だと高値となります。
腎臓	BUN(尿素窒素)	8.0~22.0mg/dl	腎臓の機能をみる検査です。心不全・消化管出血・腎機能低下・尿毒症などで高値となります。
	CRE(クレアチニン)	男性 0.6~1.0mg/dl 女性 0.5~0.8mg/dl	腎臓の機能をみています。糸球体腎炎・腎不全・尿路閉塞・脱水症などで高値となります。
	UA(尿酸)	3.4~6.9mg/dl	腎臓の状態をみています。痛風などで高値となります。
	e-GFR	60以上ml/分/1.73m ²	腎機能が低下していると低値となります。
	e-NaCl (推定1日塩分摂取量)	男性 8.0g/未満 女性 7.0g/未満	尿のナトリウム(Na)とクレアチニン(CRE)を測定して計算式から前日を中心直近の食塩摂取量を推定します。
電解質	Na(ナトリウム)	138~146mEq/L	体内の水・浸透圧や酸塩基平衡の調整に重要な役割をしている成分です。
	K(カリウム)	3.6~4.9mEq/L	
	Cl(クロール)	99~109mEq/L	
	Ca(カルシウム)	8.7~11.0mg/dl	副甲状腺や骨の状態をみています。副甲状腺機能亢進症では高値となります。また腎機能障害や副甲状腺機能低下症で低値となります。
	IP(無機リン)	2.5~4.5mg/dl	副甲状腺や腎臓の状態をみています。腎不全や副甲状腺機能低下症で高値となります。またビタミンD欠乏症で低値となります。

項目名		基準値・単位	検査でわかること
糖	血糖	70~110mg/dl	血液中のブドウ糖濃度をみています。食事により変動します。基準値は空腹時のものです。
	HbA1c (グリコヘモグロビンA1c)	4.6~6.2% (NGSP)	過去1~2か月前の血糖値を反映しています。糖尿病の治療指標のひとつです。
鉄	Fe(鉄)	男性 54~181μg/dl 女性 43~172μg/dl	貧血の原因と治療効果を評価します。鉄欠乏性貧血や真性多血症で低値となります。
	UIBC(不飽和鉄結合能)	男性 104~259μg/dl 女性 108~325μg/dl	貧血の原因と治療効果を評価します。鉄欠乏性貧血で高値となります。
	フェリチン	男性 27~320ng/mL 女性 3.4~89.0ng/mL	体内に貯蔵されている鉄の量を反映します。鉄欠乏性貧血で低値となります。
脂質	T-CHO (総コレステロール)	128~220mg/dl	総脂質量を表しています。高脂血症で高値となります。
	HDL-C (善玉コレステロール)	男性 41~85mg/dl 女性 41~95mg/dl	善玉コレステロールと呼ばれ動脈硬化を防ぐ作用のあるコレステロールです。
	LDL-C (悪玉コレステロール)	60~139mg/dl	悪玉コレステロールと呼ばれ動脈硬化をきたす原因となります。
	TG(中性脂肪)	30~150mg/dl	中性脂肪の量をみています。糖尿病・高脂血症で高値となります。
甲状腺	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	0.51~4.26μIU/ml	甲状腺ホルモンの分泌を調整しているホルモンです。甲状腺機能を調べる検査です。
	フリーT3 (遊離トリヨードサイロニン)	2.39~4.06pg/ml	甲状腺の働きを調べています。甲状腺機能亢進症で高値となり甲状腺機能低下症で低値となります。
	フリーT4 (遊離サイロキシン)	0.71~1.52ng/dl	甲状腺の働きを調べています。甲状腺機能亢進症で高値となり甲状腺機能低下症で低値となります。
腫瘍マーカー	CEA(がん胎児抗原)	0.0~5.0ng/ml	消化器がんや肺がんなどで上昇する腫瘍マーカーです。
	AFP(α-フェトプロテイン)	0.0~10.0ng/ml	肝細胞がん・肝炎・肝硬変で上昇する腫瘍マーカーです。
	PSA(前立腺特異抗原)	0.0~4.0ng/ml	前立腺がんや前立腺炎で上昇する腫瘍マーカーです。
	CA19-9(糖鎖抗原19-9)	0.0~37.0U/ml	消化器・膵臓・胆道のがんや炎症で上昇する腫瘍マーカーです。
	PIVKA-II	0.0~39.9mAU/ml	肝細胞がんで上昇する腫瘍マーカーです。
感染症	RPR(脂質抗体)	0.0~1.0R.U.	梅毒の感染の有無をみています。2つの検査を合わせて総合的に判断します。
	TPLA(梅毒抗体)	0.0~0.5C.O.I	
	HBs抗原	陰性	B型肝炎の感染の有無をみています。
	HCV抗体	陰性	C型肝炎の感染の有無をみています。
	HIV1/2抗体	陰性	HIVの感染の有無をみています。
赤血球	赤血球数	男性 410~530万/μl 女性 380~480万/μl	赤血球は体のさまざまな細胞に酸素を運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運びます。この中心的な役割をしているのがヘモグロビンです。ヘマトクリットは赤血球の割合を示しています。低値の場合は貧血を疑います。
	血色素(ヘモグロビン)	男性 12~16g/dl 女性 10~14g/dl	
	ヘマトクリット	男性 39~52% 女性 35~48%	
	MCV(平均赤血球容積)	89.0~99.0fl	赤血球の容積や機能を表し、貧血の原因を鑑別する手掛かりになります。
	MCH(平均赤血球ヘモグロビン量)	29.5~35.0pg	
	MCHC(平均赤血球ヘモグロビン濃度)	31.0~36.0g/dl	

項目名	基準値・単位	検査でわかること
白血球	白血球数	35～93百/μl 血液の血球成分の1つで細菌などから体を防御します。さらに好中球・リンパ球・単球・好酸球・好塩基球に分類されます。
	Neutro(好中球)	48.0～61.0% 細菌を処理する働きがあります。感染や炎症で増加します。
	Lympha(リンパ球)	24.0～45.0% ウイルス感染などで増加します。
	Mono(単球)	4.0～7.0% 病原体を貪食する働きがあります。
	Eosino(好酸球)	1.0～5.0% アレルギー反応に関与しています。花粉症などで増加します。
	Baso(好塩基球)	0.0～1.0% アレルギー反応に関与しています。

血小板	血小板数	12.0～38.0万/ul	止血機構をみています。肝硬変で減少することがあります。
-----	------	---------------	-----------------------------

尿検査

尿検査	尿蛋白	陰性 (-)	腎臓の機能をみています。ネフローゼ症候群・糖尿病性腎症などで検出されます。また腎臓が正常でもストレス・激しい運動後にも尿蛋白が検出されます。
	尿糖	陰性 (-)	尿中に出てくる糖の量をみています。糖尿病などで検出されます。
	潜血	陰性 (-)	尿に血が混ざっているかどうかの検査です。腎炎・腎結石・尿路結石・膀胱炎などで検出されます。

生理機能検査

呼吸機能検査	VC(肺活量)	80%以上	肺線維症・間質性肺炎・塵肺などで低値となります。
	FVC(努力性肺活量)	70%以上	喫煙などが原因による慢性閉塞性肺疾患(COPD)で低値となります。

ABPI	CAVI	7.9～9.5	動脈の硬さを表します。動脈硬化が進むと高値となります。
	ABI	1.00～1.29	動脈の狭窄の具合を表します。動脈に狭窄があると低値になります。

検査室によくある質問

Q1.採血の前に食事をしてしまったけど大丈夫？

↳ 食事をすると中性脂肪や血糖値などに影響がでます。

※ 食事をとっても差し支えない場合がありますので、主治医に相談して下さい。

Q2.一回の採血量はどのくらいですか？

↳ 検査内容により採血容器、採血本数が異なります。およそ10～15mlです。

Q3.検査結果はどのくらいで出ますか？

↳ 上述した院内検査項目は約1時間で検査結果が出ます。

